

7年産

寒締め ちぢみほうれん草栽培基準

目標粗原反収	1,620kg
目標製品反収	1,620kg
播種時期	9月上旬
収穫時期	11月下旬～12月下旬

	品 種	4月～8月	9月			10月			11月			12月		
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
基本作業	冬霧7 じつり朝霧	防虫ネット 準備	播種						寒締め					
			防除									収穫		

【土壌診断値に基づいた施肥基準 10a当り(坪当り)】

有効態磷酸 値 (+塩100g)	肥料名	施用量(kg)		要素量(kg/10a)		
		kg/10a	(kg/坪)	N	P	K
20～30mg	NS604	60.0	(0.20)	9.6	6.0	8.4
30mg以上	NS248	45.0	(0.15)	9.0	1.8	3.6
-	硫安	43.0	(0.14)	9.0	-	-

【EC値に基づいた窒素施肥量(10a当り)】

EC値	0.00～0.25	0.25～0.50	0.50～0.75	0.75～1.00	1.00以上
窒素量	0.0	3.5	7.0	10.5	14.0
施用量	9.0	5.5	2.0	0.0	0.0

【栽植密度(坪当り)】

	畦 間	株 間	株 数	シーダーテープ
①	25cm	8cm	166	13.3m
②	25cm	10cm	266	13.3m

※②は2粒播種、間引きが必要(間引き後133/株数)

【農薬使用基準】

項 目	適用病虫害名	農 薬 名	使用濃度 (倍)	10a当り薬量 (水100L)	適正使用基準 使用時期	RAC 回数	RAC コード
殺菌剤	立枯病(ピシウム菌)	タチガレン液剤	500	200ml	は種時 (散布水量:3L/平方 m)	1	F:32
	立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	750	133g	は種時～子葉展開時 (散布水量:3L/平方 m)	1	F:7
	べと病	ピシロックフロアブル	1,000	100ml	前日	2	F:U17
		ランマンフロアブル	2,000	50ml	3日	3	F:21
殺虫剤	ネキリムシ類・ホウレンソウケナガコナダニ	フォース粒剤	-	全面9kg	は種前	1	I:3A
	タネバエ	ダイアジノン粒剤5	-	作条6kg	は種時	1	I:1B
	アブラムシ類	アドマイヤー顆粒水和剤	10,000	10g	前日	2	I:4A
	ハスモンヨトウ・ホウレンソウケナガコナダニ	アフーム乳剤	2,000	50ml	3日	2	I:6
	ハスモンヨトウ・マメハモグリバエ ホウレンソウケナガコナダニ アシクロハモグリバエ	カスケード乳剤	4,000	25ml	3日	3	I:15
	アザミウマ類・アシクロハモグリバエ	スピノエース顆粒水和剤	5,000	20g	前日	2	I:5
	ホウレンソウケナガコナダニ	ディアナSC	2,500	40ml	前日	2	I:5
	ミナミキイロアザミウマ・アシクロハモグリバエ	パダンSG水溶剤	1,500	66g	7日	2	I:14
	アザミウマ類・アシクロハモグリバエ アブラムシ類・ホウレンソウケナガコナダニ	リーフガード顆粒水和剤	1,500	66g	7日	2	I:14

※パダンSG水溶剤の高温時の使用は、薬害が発生しやすいので注意する。

【ローテーション防除】

生育時期	防 除 薬 剤
子葉期	パ ダ ン S G 水 溶 剤 (成虫)
1～2葉期	デ ィ ア ナ S C (成虫/幼虫)
2～3葉期	ア フ ァ ー ム 乳 剤 (成虫/幼虫)
3～4葉期	パ ダ ン S G 水 溶 剤 (成虫)
収穫直前	デ ィ ア ナ S C (成虫/幼虫)

※生育時期で薬剤を選択ください。

【土づくりと防除および栽培技術】

- 堆肥(上限3t/10a)、有機質資材は前年秋に施用する。
- 最初の作付け前に土壌診断を行い、有効態磷酸20～30mg/100g、pH6.0～6.5を目標に改良する。
- 作付け前にECを必ず測定して施肥量を決定する。
- 生育中の水分を蓄えるため、は種前に十分な灌水を行う。
- 紫外線カットフィルムの使用により病虫害の発生を軽減する。
- 害虫の侵入を防ぐため、防虫ネットを設置する。
- 上記5、6により農薬の使用を削減する。
- 寒締め栽培は低温管理(平均5℃の低温管理で、糖度を上昇させる)を行い、糖度が8度になったら収穫する。